

[ボクシング] 世界アマチュア

川内 会心の銅メダル

日本人29年ぶりメダル獲得

アマチュアボクシングの世界選手権が10月20日から11月3日まで、アメリカ・シカゴで行われ、川内将嗣(商4・龍谷高)がライトウェルター級で銅メダルを獲得した。日本人のメダル獲得は29年ぶり2人目の快挙。また、今大会8位以上の選手には北京五輪の出場権が与えられるため、同時にオリンピックのキップも手にした。



▼銅メダルを手に、出迎えの部員たちと(成田空港で)

北京五輪出場も確定

川内は1回戦でアテネ五輪金メダリストと対戦。「強気で試合に臨んだ。ポイントは僅差だったが、一番の山場を越えたと思った」と振り返る。「その後も楽な試合ではなかった」と話し、迎えたベスト8進出をかけた一戦。最終ラウンドまでで5ポイント差をつけられ「心が折れそうになったが、コーチの激励で立ち直ることができた」と話すとおり、積極的に打って出て、劇的な逆転勝利で北京五輪の出場権を手にした。準決勝で敗れたものの3位決定戦は行われなかったため、3位となった。「銅メダルよりも五輪出場を決めたことの方がうれしい。しかし、スピード、パワー、テクニックすべてにおいてまだ世界に及ばないと感じた。今回は運で取れたメダルだと思うので、オリンピックでは実力でメダルを取ります」と意気込みを語った。

通算戦績は102戦95勝(64RSC=レフェリーストップコンテスト)7敗(11月13日現在)。

(新海 城生・経済3)

[卓球] 全日本学生

杉本 女子単で初優勝 男子ダブルスは徳増・森田組

全日本選手権にも期待

全日本学生卓球選手権が10月18日から21日まで、愛知県体育館で行われ、女子シングルスで杉本枝穂(文3・青森山田高)が、男子ダブルスで徳増信弥(経済2・杜若高=写真右)・森田翔樹(商2・青森山田高=写真左)組がともに初優勝を成し遂げた。

最終第7セットまでもつれこんだ接戦を制した杉本は「この大会に向けて何カ月も前から努力してきたので、優勝という最高の結果を残すことができた。信じられないくらいうれしい」と語った。

準決勝、決勝を3—0のストレートで圧勝した徳増・森田組は「シングルスでは共に早く敗退したので、ダブルスでは、という意気込みがあった。最初から声を出していったのが結果につながった」と振り返った。

ダブルスでは江藤真伍(経営4・柳川高)・立石イオタ良二(商4・柳川高)組が男子7位、杉本・堀部紗代(文3・土佐女子高)組が女子8位に入賞。この結果シングルス1人、ダブルス3組が1月の全日本選手権(東京体育館)の出場権を得た。“専大黄金期”の再来となるか、注目だ。



(馬場 雄也・ネット情報1)

[バドミントン] 全日本学生

団体戦3位入賞 女子ダブルスは木村・梨木組準優勝

全日本学生バドミントン選手権が10月20日から25日まで、千葉ポートアリーナほかで行われ、団体戦で3位に入賞した。

井上まり(文3・越谷南高)・穴井友喜(商1・青森山田高)ペアの活躍で勝ち進み、準決勝で日体大と対戦。2―2で迎えた最後のシングルスで惜しくも敗れたが、昨年の1回戦敗退という悔しい結果から大きな成長を見せた。富永絢子主将(商4・越谷南高)は「一致団結して練習から取り組んだ結果、勝ち進むことができた。これからもチーム内でお互いをライバルだと思いながら練習して、さらに活躍してほしい」と後輩にエールを送った。

また、女子ダブルスでは木村綾(経営4・金沢向陽高)・梨木春花(商4・金沢向陽高)ペアが準優勝という好成績を取め、同シングルスでは田村千秋(文1・昭和学園高)が5位と健闘。この結果、全日本総合選手権(11月13～18日、代々木第2体育館)の出場権を獲得し、木村・梨木ペアが本戦から、田村が予選から出場する。

(庄子 亮介・文1)

[レスリング] 全日本大学グレコ

120kg級北村が優勝

全日本学生96kg級に続き2大会制覇

レスリングの全日本大学グレコローマン選手権が10月18、19の両日、東京都の駒沢体育館で行われ、120kg級で北村克哉(商4・日本工大付属東京工高)が見事優勝を果たした。

決勝戦の第3ピリオド、先にポイントを取られ、北村のグラウンドでの攻撃も残り10秒を切っていたが、一瞬の隙を突いてポイントを奪い、逆転勝利。全日本学生選手権のグレコローマン96kg級に続き、2大会連続優勝の北村は「決勝戦は予想通りの相手だったが、自分のコンディションも良く、コーチの的確な指示もあり、最後まであきらめずに攻めることができた」と話し、「12月の全日本選手権では96kg級を制し、北京五輪代表の座を勝ち取りたい」と意気込みを語った。



▲グラウンドで勝負をかける北村

今大会では84kg級で矢野将章(経済3・広陵高)が準優勝、55kg級で前田拓郎(経営3・上田西高)がベスト8入りし、74kg級の上迫博仁(経営2・沼津城北高)が最短フォール賞を受賞した。また、大学別対抗は4位。

(庄子 亮介・文1)

[相撲] 全国学生

団体戦Aで3位 ベスト4進出は15年ぶり

全国学生相撲選手権が11月3、4の両日、大阪府の堺市大浜公園相撲場で行われ、団体戦Aクラスで3位入賞を果たした。専大のベスト4進出は15年ぶり。

予選を5位タイで突破した専大は、決勝トーナメント1回戦で東洋大に3—2で勝利。続く準決勝で今大会優勝の日体大に敗れたものの、昨年のBクラス準々決勝敗退から大きく成績を伸ばした。各選手が十分に実力を発揮したが、なかでも今大会の学生横綱・榎本(東洋大)に予選、決勝トーナメントで2度土をつけた藤田真(経営3・響高)の活躍が光った。



▲蒲田重勝監督を交え、喜びの部員たち

個人戦でもベスト16進出を果たし、チームを牽引した水野裕士主将(経営4・愛工大名電高)は「準決勝で敗れた日体大(今大会優勝)とは、毎回、紙一重の差で勝負が決まる。チーム力の差は感じない」と、12月の全日本相撲選手権に向け、自信をうかがわせた。

(松本 かおり・文2)